

## 第3回 箏専攻生演奏会 曲目紹介

### 1. 氷華二題より「彩氷」

吉崎克彦作曲のこの曲は、昨年12月に行われた短期大学の食物栄養学科のクリスマス会で演奏しました。

私は洞窟にある氷柱のことをイメージしながら練習しました。静かなところで氷柱が溶け、水が落ちて響き渡る様子、ライトを当てるとキラキラと光り輝く様子などを想像しながら演奏します。



### 2. 花筏

沢井忠夫作曲です。「花筏」とは、散った桜の花びらが川面などの水面に浮き、連なって流れていく様子のことです。その花びらの動く様子をいかに見立てた言葉とされています。

私がこの曲を初めて演奏したのはちょうど3年前になります。その時から花びらの動きや流れが箏の様々な技法と共に表されているこの曲が大好きでした。今回は私の強い推薦で演奏できることになり、とてもうれしく思っています。優雅に流れる桜の花びらを想像しながらお聞きください。



### 3. 万葉花

水野千鶴作曲です。作曲者は「美しい和花(わばな)に様々な思いをよせた万葉人。いにしへの時代に心を馳せ、音にしてみました」と語っています。

この曲は1年後期の実技試験で演奏した曲です。お箏には楽譜には表せない独特の間と余韻があり、その間はレッスンを受けて学ぶことができました。講師の光原先生から「間と余韻を大切に!」と何度も言われ、耳や感覚で覚えました。「間と余韻」を楽しみながらお聞きください。



### 4. 春よ、来い

松任谷由実作曲です。私はこの曲の伴奏部分がとても好きで、ながるる雨のごとく花びらが舞っている様子を思い浮かべながら演奏しています。今日は卒業生の長増野枝先輩をまじえて三重奏で演奏いたします。



## 5. 備北賛歌



菊重精峰作曲です。私は高校に進学してからお箏を始めましたが、先生方も生徒も菊重先生の曲が大好きで、毎年1曲は菊重曲を合奏していました。

私にとって先生の作曲する曲はどれも面白く、箏でこんなこともできるんだと実感しながら、日々練習しています。先日山口県で菊重先生の特別レッスンを受けさせていただき、感激しました。

こちらにも三重奏で合奏をします。広島県の備北地方にある吾妻山や丘陵公園などを散策した時のことを思いながら作曲された曲です。その雄大な自然を思い浮かべながらお聴きください。

## 6. 五段砧



光崎検校作曲です。「段」とは短い楽章のことであり、曲名の通り、5つの段が連なった大変難しい曲です。「砧」とは昔各家庭で夜に布を叩いて艶を出す道具や作業のことを指しています。布を叩く砧のリズムを基本に、様々な手法や旋律で編曲されています。

この曲は大学4年生という人生の1つの分岐点にいたこの1年間、ずっと傍にいて共に成長してくれた大切な曲です。そしていろんな先生にご指導いただき、自分でも一番と思えるほど研究を重ねた曲でもあります。また私は4月から、東京の正派音楽院という学校で本格的に日本音楽の勉強を始めますが、その時の試験曲であり、1月の卒業試験で演奏した曲でもあります。

大学に入るまでは古典曲を中心に、自分一人か先生と二人で演奏する事が当たり前でした。しかし大学では、同じ年代の箏奏者に出会い、三味線や尺八、また西洋楽器との合奏も経験しました。現代曲も多く教わり、古典曲と同じ点、違う点を発見することができました。

4年生の集大成として、ふたたび古典曲を扱えたのは、私にとって大変嬉しいことであり、またプレッシャーのかかることでもありました。今回は、砧を表す低音を光原大樹先生、秋の色を表す高音を私の演奏でお届けいたします。大学生として演奏する最後の五段砧、どうぞお聴きください。

## (アンコール)「さくら」

アンコール曲は平井孝三郎作曲「さくら」です。「さくら さくら」と一度は耳にしたことがあると思います。私は普段、歌いながらお箏を弾くことはあまりありませんが、今日は挑戦してみようと思います。最後までお聴きいただき、本当にありがとうございました。

